

視 察 日 時	令和 6 年 7 月 4 日（木） 10：00 ～ 11：40
視 察 先	北海道千歳市 道の駅サーモンパーク千歳（説明：左記施設）
視 察 項 目	道の駅「サーモンパーク千歳」について
視 察 概 要	（１） 施設整備の背景と協議経過について ・平成 6 年、千歳サーモンパーク（通称、インディアン水車公園）が、千歳サケのふるさと館（淡水魚水族館）とともに、財団の運営により供用が開始される。 ・平成 17 年、公園内に店舗やトイレが設置され、道の駅（道内 86 番目）に認定される。 ・平成 23 年、水族館でシロザケの成熟成功やチョウザメの人工孵化、シシャモの生育などの取り組みがはじまり、公園利用者のトイレ等施設の老朽化解消、店舗の集約化などの要望から、リニューアル事業に着手する。 ・平成 27 年、リニューアルオープン（現在の建物）に伴って、シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社を指定管理者に選定する。 ・令和 5 年、指定管理者が株式会社 T T C に変更、運営方針が大幅に変更され、子会社の株式会社ムーバーが運営をしている。 （２） 施設整備並びに運営に係る方式の検討について ・施設は、収益目的部分において交付金や起債の対象外であり、運営に商業的ノウハウが必要であるため、リース方式による指定管理者制度によるものとしてきた。 ・駐車場等は、交付金や起債の対象であり、市として施行管理を行っている実績やノウハウがあるため、公設によるものとしてきた。 ・令和 5 年に指定管理の範囲を変更し、駐車場も一体的に管理運営するものとしている。 （３） 施設運営の現状と課題について ・6 月から 11 月までは集客があるため収益を見込めるが、12 月から 4 月までは集客が半分以下、天候によっては 10 分の 1 まで落ち込むため、新たな収益構造、ビジネスモデルの変革が課題となっている。 ・施設管理は見えないところで老朽化が進み、修繕や交換などの経費が発生する事が想定される。 ・11 月からの冬季間の人件費が課題で、北海道では夏季と冬季の仕事が違う人も多いことから、雇用契約の見直しを検討している。

	(4) 今後の目標について ・「尖る」「刺さる」「突き抜ける」を運営方針とし、年間の売上目標は9億円。 ・飲食部門は、お客様に刺さる商品開発と行列ができる仕組みづくりにより、メディアに取り上げられるようにしていきたい。 ・レストランの活用は、団体食の強化を図るため、ツアーなど団体客を呼び込むための営業に取り組んでいる。 ・産直部門は、生産者を主役に、品揃えに配慮している。手数料は販売価格の20%としている。 ・物販部門は、1,300アイテムを用意しプライベート商品は100アイテムで、試食やイベントで販売促進を図り、他で販売をしない。 ・飲食部門3割、産直部門3割、販売部門4割で構成している。 ・他の企業や団体と連携を図り、インディアン水車祭り(9月)をはじめとするイベントに参画、オリジナル商品の開発、インスタ映え、ギネスに挑戦、など様々な分野に取り組んでいる。 ・鮭の遡上を確認できる自然環境と水族館が併設されている優位性を活かして、ファミリー層に向けた取組を行っている。 ・海外のサーバーを活用してPRし、世界のサーモンパークになるよう取組を進めている。免税を含めたインバウンド集客を考えている。
所 感 (意見・感想・ 今後の課題等)	・指定管理者制度による施設の管理は、依頼する企業等の選定と政策が重要であり、運営をどの様に考えるかによって、施設の活用方法や集客等が異なってくることが理解できる視察となった。 ・以前の指定管理者が契約していた出展者の立ち退きを巡って、指定管理者の変更に伴ってトラブルが発生している。 ・現在、指定管理者となっている株式会社TTCは全国16カ所の自治体施設管理で収益を上げており、道の駅「サーモンパーク千歳」では収益の3%が市の一般会計に計上されている。 ・本市における行政上の取り組みにおいて、指定管理者制度による運営に馴染むものと馴染まないものがあるのではないかと感じた。